

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年十月度 入選句（投稿総数三千二百五句・小中学投句数二千五百五十四句）

特選

選者 説田 祐子

ゆかたから胸のドキドキなりひびく 中津川市 小川 莉世(中三)

夏祭りの頃の事でしょうか。お盆の頃のことでしょうか。いつもは身軽な服装できつと元気に活動している中学生の作者がゆかたを着たのですね。浴衣を着終わった瞬間、「胸のドキドキ」を感じたのですね。分かるような気がします。その「ドキドキ」が「なりひびく」で、よりその気持ちが高まっていることが伝わってきます。「ドキドキ」しながらもうれしい気持ちで隠し切れない気持ちも読者に伝わってくるさわやかで楽しくなる句です。

ジリリリセミからセミへセミ電話 大垣市 林 いずき(小五)

今年の夏は、特に暑かったですね。セミはその暑さを吹き飛ばすように「ジリリリ」と鳴き続けていましたね。その鳴き声が電話のように聞こえたのですね。そして、その鳴き声が仲間のセミに電話をかけているように「セミからセミへセミ電話」と「セミ」を繰り返しているところもおもしろいです。夏の暑さを今も思い出す一句です。

とんぼさん田んぼを飛びかうヘリコプター 大垣市 伊藤 彰啓(小五)

秋になり、田んぼの稲穂が黄色く色ついてきました。そんな田んぼの上をトンボが飛んでいる。よく見かける風景ですが、そのとんぼを「ヘリコプター」と捉えたところがおもしろいです。「ヘリコプター」は同じところを「とびかう」としたことで、このトンボは、この田んぼが気に入ったのかもしれない。「実りの秋」の情景が浮かぶふるさと俳句です。

秀逸

セミの声外で遊ぼと呼んでいる 中津川市 山田 晟諒(中三)

あきの夜のしゅやくはにわの音楽家 大垣市 ふか見 けいすけ(小二)

紅葉をながめて友を待っている 大垣市 松吉 航平(小六)

一とうしようかぞくみんなでくりごはん 大垣市 ひびの はるく(小二)

じきゆうそうゴールいんでおちばふむ 大垣市 川瀬 景都(小四)

あかとんぼ運動場で運動会 大垣市 清水 啓太(小四)

たいふうがおにのようにおいかける 大垣市 早野 立希(小四)

もみじたちいろがかわってファッションショー 大垣市 丸井 美空(小四)

こおろぎがげんかんにきてごあいさつ 大垣市 多賀 史奈(小二)

コスモスが空き地ゆらりと顔を出す 大垣市 鹿野 涼那(小五)

入選

一人きり寝る夜は蛙の声を聞く 中津川市 西尾 あい華(中三)
 今年だけ平成最後の夏休み 中津川市 三尾 梨菜(中三)
 八がつのでんきだいみてさけぶはは 大垣市 安藤 煌健(小二)
 秋の風草花たちをおどらせる 大垣市 聚岳 美結(小五)
 どんぐりがコロコロおちておかくだり 大垣市 安福 しょうご(小三)
 キンモクセイかおりが風とやってきた 大垣市 中嶋 彩(小五)
 秋風がエールを送り走り出す 大垣市 山田 麻姫(小六)
 がんばった応援合戦秋の暮 大垣市 加納 実呼(小六)
 月の夜家族で囲むたんじょう日 大垣市 松川 倅大(小六)
 とんぼさんわたしのゆびにとまったよ 大垣市 にし しゅあ(小二)

入選

かかしがね田んぼに一人たっている 大垣市 もり かなと(小二)
 あきまつりみんなおどってあいかお 大垣市 まつおか はるき(小二)
 たんじょう日かぞくでたべるくりごはん 大垣市 あぼ しょうま(小二)
 かえったらしくくだいやつてくりごはん 大垣市 たかだ あんな(小二)
 おいわいにケーキと一ぜんくりごはん 大垣市 岡田 颯羅(小二)
 あかとんぼはしっているとついてくる 大垣市 石ばし れん(小四)
 運動会みんなのおうえんゴールだよ 大垣市 増田 叶真(小四)
 秋の日にミツキー来たよ大垣に 大垣市 高橋 梨里(小四)
 秋の空応援団の声ひびく 大垣市 森 麻亜子(小五)
 すず虫と妹ともに歌ってる 大垣市 遠藤 來花(小五)

選者吟

どの部屋もコスモス活けて人迎う

祐子